

令和8年度 北越高等学校 学校自己評価表(計画)			
学校運営計画			
<p>〔学校運営方針〕 建学の精神、教育目標、教育方針に基づいた学校運営 〔スクールミッション〕 (1) 存在意義 建学の精神「報恩感謝」「勤労奉仕」のもと、「人づくり」の理念をもち、有為な人材を輩出してきた伝統をもつ私立高校 (2) 期待される社会的役割 地域社会との関わりの中で、様々な角度から物事を考え、自ら行動し、挑戦し続ける姿勢を育み、国内外の幅広い分野で活躍できる人材を育成する学校 (3) 目指すべき学校像 「質の高い授業」「探究的な学びの実践」「課外活動の充実」により、生徒の多様な個性と能力を伸ばさせ、国内外の幅広い分野で活躍できる人材を育成することで地域社会から信頼される学校</p>	<p>〔建学の精神〕 「報恩感謝」「勤労奉仕」 〔教育目標〕 「知・徳・体の調和のとれた心身ともに健康で人間性豊かな有為な人材を育成する。」 〔教育方針〕 1 学習内容を選定し、基礎的、基本的な学習の徹底した指導によって、学力の充実にを図る。 2 生徒の適性、能力に応じたコースや科目の選択を通して、行き届いた進路指導を行うとともに、実践的な学力を養成する。 3 挨拶の励行等、人間としてのマナー・礼儀を重視し、規律ある生活習慣と態度を身につける。 4 部活動、特別活動を充実させ、健全な身体と進取の気性を養う。 〔育てたい生徒像〕 「社会との関わりの中で、自他の幸せと成長の為に自ら行動できる人」</p>		
令和7年度の成果と課題	年度の重点目標	具体的目標	
<p>〔成果〕 ○教育活動全般を通じた生活指導の充実 ○安心・安全な生活環境の整備 ○レスリング部 IH個人出場・全国選抜個人5位入賞 ○男子バドミントン部 IH・全国選抜出場 ○男子ソフトテニス部 IH・全国選抜出場 ○卓球部女子 IH・全国選抜出場 ○新体操部 IH・全国選抜出場 ○女子ソフトテニス部 IH出場 ○ラグビー部 全国高等学校選抜ラグビーフットボール大会出場 ○書道部 第34回国際高校選抜書道 入選2名 ○国公立大学等に50名合格、大学等進学率75.2%</p>	<p>I 確かな学力の向上</p> <p>II 基本的な生活習慣の確立</p> <p>III 規範意識の醸成</p>	<p>・「分かる授業」の実施 ・主体的、対話的で深い学びに向けた授業改善 ・新しい大学入試に向けた確かな学力の定着</p> <p>・一日の生活リズムと学習習慣の確立 ・基本的な食習慣の確立 ・健康指導の充実</p> <p>・自他を大切にしている指導の徹底 ・校則の遵守 ・挨拶指導の充実</p>	
<p>〔課題〕確かな学力の向上・部活動の実践の向上 ・授業改善の取組を教員個々の努力にとどめ、学校全体で共通理解を図った授業改善の仕組みづくりを進める。 ・生徒の学力層に応じたための細かな学習支援や、基礎・基本の定着と応用力育成の両立を推進する。 ・生徒の進路の第1希望を達成させるため、教科だけでなく、探究的な学習やICT活用を通じた学習活動を進める。 ・各部の目標が達成できるよう、部活動がドライブインに沿った指導を適正に行う。</p>	<p>IV 部活動、特別活動の充実</p>	<p>・安全を第一に活動する。 ・合理的、科学的手法に基づいた部活動指導 ・生徒・保護者から信頼される部活動運営 ・生徒一人一人の成長が実感できる部活動</p>	
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価
1 学年	建学の精神「報恩感謝・勤労奉仕」のもと、育てたい生徒像の育成の土台の形成	教科で身につけた力をキャリア形成や探究活動に活かし、自己理解を深めるとともに、地域・社会課題への関心を高める指導を行う。 学校行事を通して他者と関わる喜びを実感させるとともに、担任・副担任を中心に複数教員で関わり、生徒同士が協働する場面を計画的に設定する。	
	生徒の基本的な生活習慣の確立	挨拶、整理整頓、清掃、適切な言葉遣いなど、凡事徹底を通して落ち着いた生活態度を育成する。 健康的な生活習慣を励行させるとともに、学校および社会のルールを遵守させ、安全で安心な学校環境を維持する。	
	生徒の基礎学力の充実および学力の向上	授業を中心とした学習活動に主体的に取り組ませ、互いに学び合う学習環境を形成する。 文理選択や進路選択の機会を通して進路意識を高め、日々の学習に目的意識を持たせる。	
	建学の精神「報恩感謝・勤労奉仕」のもと、育てたい生徒像の育成の土台を築く	オリエンテーション行事、学校行事、探究活動、研修旅行、ボランティア活動などを通して、地域や世界に視野を向け、将来どのような分野で社会に貢献していくべきか、自らの考えを深める機会を多く設ける。 社会との関わりの中で、自他の幸せと成長のために、自ら行動する姿勢を育むよう努める。	
2 学年	生徒の基本的な生活習慣の確立	ホームルーム活動を充実させ、生徒との信頼関係を築き、すべての生徒が自分らしく安全で安心して過ごせ、幸せな状態で、成長していけるための自分の居場所づくりを支援する。 他者を尊重し、全員が落ち着いた生活を送るために、社会や学校の規範を遵守する気持ちを醸成する。	
	生徒の基礎学力の充実および自らのキャリアを切り開く力の向上	授業を大切にしている姿勢を養うとともに自主学習を励行し、自身の希望進路を目指すための基礎学力を養う。英検合格者数目標(累計) 2級50名以上 準2級130名以上 3級150名以上 探究活動やボランティア活動を通じて活用し社会との繋がりを体験する中で、様々な経験を通じて自身の生き方を考え、キャリアを形成していく力を身につけさせる。	
	建学の精神を体現する生徒の育成	1年次・2年次の探究活動をまとめ、社会との繋がりを意識し、進路実現に活かすことができるよう指導する。 体育祭、ボランティア活動への参加を通じて、集団内での役割意識や他者との協働性を育む。	
	上級生らしい模範的な姿の確立	遅刻・欠席を減らし、規則正しい生活習慣を確立できるよう指導する。 最上級生として校則と生徒指導のきまりを遵守し、落ち着いた学校生活を送るよう指導する。	
3 学年	生徒の基礎学力の充実および学力の向上	進路実現に向け、主体的に学習活動に取り組む姿勢を醸成する。 難関国公立大合格2名以上、国公立大学合格者60名以上、難関私大(早慶上理GMARCH関関同立)5名以上、大学進学率80%以上。 民間就職内定率100%、公務員試験合格。	
	生徒の学力向上のため、生徒の学習環境を充実させる	年間計画を立てる際に、授業時数が確保できている。 教室の学習環境を整備し、授業に集中して取り組める環境をつくる。	
	生徒の学力向上のため、教員研修を充実させる	研究授業や研修を年2回以上実施して、授業改善の方法の共有や各教員の授業スキル等の向上を目指す。 年間を通じて教科部会が開催され、各教科に課題を共有して授業改善が行われている。	
	教育活動を充実させるため、教員の業務負担軽減	分掌業務や教育活動などの内容についての検討会を実施する。 採点ソフトの円滑な運用と利用の推進。	
生徒支援	基本的な生活習慣の確立	時間の厳守(学校全体として遅刻防止の推進、遅刻指導の徹底) 正しい服装・身だしなみの徹底(学年・授業等学校生活全般における指導、服装頭髪指導の実施)	
	生活・交通安全指導の徹底	交通ルールの遵守(通学指導、登下校指導の実施) 情報リテラシーの育成、スマートフォン等の利用マナー教育の徹底(SNS等の利用マナー)、SNS講演会の実施	
	学校生活に対する悩みを持つ生徒への対応	いじめの未然防止と早期発見の徹底、いじめに関する組織的対応(いじめのない学校づくりの推進) 学年・保健担当教員・臨床心理カウンセラーとの連携(生徒の悩みに早期に対応し、不登校等の予防を図る)	
	生徒の進路への意識の向上を図るとともに学習意欲を喚起する。	探究活動をより一層充実させ、国際貢献への意識啓発や上級学校での学問への意識を高めるよう指導する。 計画的に進路志望調査を実施し、自分自身の将来を考えて自立した学習活動ができるような指導を行う。	
進路指導	大学の内容や入試について適切な情報提供を行う。	生徒に対する進路ガイダンスや進路保護者会を工夫して実施し、適切な情報提供に努める。 LHR等や休業中に大学研究を行って、自分自身の進路について深く考えられるようにする。	
	大学等進学率80%以上 国公立大学合格者60名以上を目指す。	各教科の学習指導に効果的な情報提供を行い、コースの実態に応じた適切な学習指導ができるように努める。 基礎学力の定着を図るとともに、講座等を適切に運営し、志望校合格のための学力の向上に努める。	
	広報媒体を作成し、中学校・受験生・保護者に確実に届ける	学校案内やオープンスクールのチラシを発行し、新潟市内の全中学校に配布する。 作成した広報媒体をHPやオープンスクールなどで活用する。	
	オープンスクールや高校説明会、入試説明会、部活動体験にて適切な情報を提供する	オープンスクールを3回、入試説明会を2回、部活動体験を最低1回実施する。 入試説明会などを通じて、入試制度や北越の特色などを分かりやすく伝える。 入試業務を適切に分担し、円滑に運営できるような業務内容の改善・見直しに努める。	
入試広報	入試業務の運営を適切に行う	中学校・受験生・保護者に誤った情報が届くようなミスを起こさずに確実に業務を遂行する。	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価
教科	国語	知識・技能等の基礎基本の定着を図り、思考力・判断力・表現力の充実を図る。	現代文・古典とも基礎事項の習得定着を図り、論理構成、心情、主題などを理解し表現できる力を養う。
		近年の国語学力への社会的要請や次年度からの本校教育課程の変更を見据えて、指導のあり方を研究する。	小論文試験にも対応できるような、本文要約力、意見集約力、自己発信力を身につけさせるよう指導する。
		進路決定に向けた実力を身につけさせる。	各科目(特に1年次科目)での学習内容の精選と評価のあり方を実態に即し研究する。
			実用的な文章の適切な読み取りのための基礎的読解能力を重視した指導を行う。
	地歴・公民	科目に興味を持たせる授業を行う	研究授業・授業改善研修を実施し、教科の取り組みと課題を共有する
		基礎的・基本的知識を定着させる	各科目、授業評価アンケートでの授業に積極的に参加している項目で肯定的回答8割以上にする
		実践的学力の向上を養う	各科目の観点別評価の「知識・技能」達成率を65%以上にする
			授業評価アンケートでの学習内容の難易度の項目で肯定的回答8割以上にする
	数学	指導内容の充実	各科目の観点別評価の「思考・判断・表現」達成率を60%以上にする
		基礎学力の定着	一般入試受験生の大学入学共通テストの各科目の平均点が全国平均を上回るようにする
		実践的学力の向上	各単元の目標と評価規準を明示した授業を実施し、振り返りを年間5回以上行う。
			定期考査において思考力・判断力・表現力を問う記述問題を1題以上出題する。
	理科	授業内容を充実させる	各科目の指導方針、指導計画に沿った適切な授業を展開する。
		学力に応じた適切な指導を行う	各単元の目標と評価規準を明示した授業を実施し、振り返りを年間3回以上行う。
		実践的な学力を養う	年に1回以上は公開授業や教員間での研修を取り入れ、授業におけるICTの効果的な活用について研究に務める。
			各科目、授業評価アンケートでの授業に積極的に参加している項目で肯定的回答8割以上にする。
	保健体育	学習集団づくり	各科目の観点別評価の「思考・判断・表現」達成率を60%以上にする
		目標の設定	一般入試受験生の大学入学共通テストの各科目の平均点が全国平均を上回るようにする。
		教材・教具の工夫	互いに認め合いながら学習ができる学習集団づくりをする。
		発問・指導の適切さ	授業の系統性を考えシラバスに位置づけ狙いや目標を生徒に示した上で臨んだ。
活動場の構成		生徒の実態を十分に考慮して授業を構成するなど計画をたてて行う。	
		授業のねらいや目標が達成する。	
安全への配慮		準備した教材・教具や授業の展開のしかたを適切に行う。	
個の学習の成立		生徒の理解を助けるように発問や指示を適切に行う。	
英語	基礎力を強化する	生徒を意欲的に学習に取り組ませる。	
	応用力、運用力を強化する	授業に集中しやすい環境や雰囲気形成する。	
		一方的な説明だけではなく生徒が主体的に活動する場面を設ける。	
芸術	音楽	生徒の発表などに対して意欲を引き出すように働きかける。	
	美術	生徒一人ひとりの健康状況を把握し事故がおきないように努める。	
	書道	生徒一人ひとりの学習状況の把握に努め必要な支援を行う。	
家庭	授業内容の充実	全生徒が積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢を養う。	
	基礎学力の定着をはかる	中学校既習内容(文法・単語)について一定の理解と定着を図る。	
情報	情報活用の実践力を養う	英語の4技能5領域の力をバランスよく伸ばすための学習習慣を、できるだけ早期に身につけさせる。	
	情報の科学的な理解ができる	英検2級合格者50名を目指しながら、外部試験や模試に一人でも多くの挑戦を促し、英語の運用力を高める。	
	情報社会に参画する態度を育てる	英語を通して情報を整理したり、論理的・批判的に物事を捉える活動を定期的に取り入れ、その力を育てる。	
		学期毎に1回以上機会を設け、発表やディベートを通して自分の考えを論理的に伝える方法を身につけさせる。	
総合評価		基本的な技能を身につけて、創造的かつふさわしい方法で演奏表現する力を身につけさせる。	
		実技発表・楽曲鑑賞において、互いによさを見いだしたり、自分なりの解釈を伝える力を養う。	
		用具を適切に扱い、試行錯誤しながら創造的に表現する力を伸ばす。	
		作品鑑賞を通して、自分なりの考えをもち他者と共有する場を多く設定する。	
		多様な作品に取り組ませ、作品の性質を理解した制作活動を図る。	
		鑑賞を活かした技術指導を行う。	
		生活に必要な基本的な知識と技術を習得し、自ら創造し生活する力を養う。	
		実習や実験を通じて生徒が主体的に学び、協働することができるようにする。	
		小テストや学習ノートなどで基礎事項の理解と定着をはかる。	
		課題や目的に応じて情報手段を適切に活用できるよう指導する。	
		情報を主体的に収集・判断・表現・処理・創造することができるよう指導する。	
		大学入学共通テスト(情報)において全国平均点を上回る学力を涵養する。	
		情報活用の基礎となる情報手段の特性を理解することができる力を養う。	
		情報を適切に扱ったり、自らの情報活用を評価・改善するための基礎的な理論や方法を理解することができる力を養う。	
		社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割や及ぼしている影響を理解する力を身につけさせる。	
		情報モラルの必要性に対する責任について考える力を身につけさせる。	
		望ましい情報社会の創造に参画しようとする態度が身につけられるよう指導する。	